2026年11月26日

報道関係各位

株式会社JPF

《森のアドベンチャーサイクルフェスを初開催！》

～MTB活用社会推進協議会と地域が連携し、古道を再生。約140名がE-MTBを体験～

2026年11月7日（土）、広島県安芸太田町で、町主催の「安芸太田町　森のアドベンチャーサイクルフェス」が初開催されました。企画運営は、株式会社JPF（本社：東京都千代田区、代表取締役：渡辺俊太郎）も参画する「一般社団法人MTB活用社会推進協議会」が担いました。

古道ライドには、当初予定していた定員80名を上回る140名から事前申し込みがありました。会場にはE-MTB（電動アシストマウンテンバイク）65台を含む計96台、総額5,000万円以上のMTBを用意。参加者は、近世にこの地域を支えた「たたら製鉄」の骨格でもあった古道を、地元ガイドの案内で走りました。

古道調査、古道の許認可取得、再生作業、ガイド育成は、すべて地元住民とともに約半年で実現したものです。当日は広島県副知事や国会議員ら多くの来賓もMTBを体験しました。



午前1グループ目の参加者とともに



MTB活用社会推進協議会メンバーの総力を
結集しとてつもない台数のE-MTBを集結させた

【たたら製鉄を支えた古道を、MTBトレイルとして再生】

今回のコースは、数百年にわたり人々の暮らしを支えてきた古道を生かしたものです。この道は、山の木を燃料とする「たたら製鉄」における炭焼きの搬出に使われ、安芸太田町・北広島町・広島市そして島根県を結ぶ往来にも利用されてきました。

沿道には石州瓦の美しい民家が並ぶ集落や棚田、林業の林間道が続き、家屋や田んぼの跡、炭焼き場の跡も残ります。使われなくなっていたこの生活道を、地元メンバーが道普請で培った石垣積みの技術も生かして再生しました。古道を走ることそのものが、地域の歴史と暮らしに触れる体験になっています。

JPF
Jump for Positive Future

2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.



今回のイベントで使用した古道の再生前の状態



子どもたちにとって、古道ライドは大冒険！

当日は快晴に恵まれました。プログラムは4組の入れ替え制で実施し、参加者は平地の練習フィールドで初級者講習を受けた後、地元ガイドの案内で古道を走りました。ストライダーに乗った小さな子どもたちも、ガイドの付き添いのもと、古道ライドに参加しました。
古道ライドでは、電動アシスト付きマウンテンバイク（E-MTB）を使用しました。モーターがペダルをこぐ力を補うため、上り坂でも負担が少なく、初めてMTBに乗る方も会話を楽しみながら山道を走ることができました。

会場ではパンプコースを設け、地域の魅力を紹介するブースやキッチンカーが並びました。また、日本のMTBを取り巻く環境や「広島安芸太田MTBビジョン」に関する展示も行いました。

【広島県副知事ら来賓も古道ライドに参加】
開会式では、橋本博明町長、吉松亨副知事、石橋林太郎衆議院議員からご挨拶をいただきました。橋本町長、吉松副知事、本長糧太広島県議会議員には、古道ライドにもご参加いただきました。



安芸太田町橋本町長がご挨拶



平地の練習フィールドで初級者講習

ご来賓の皆さま
・安芸太田町長　橋本博明様
・衆議院議員　石橋林太郎様
・衆議院議員　斉藤鉄夫様（秘書の方が代理出席）
・参議院議員　西田英範様（秘書の方が代理出席）
・広島県副知事　吉松亨様

JPF
Jump for Positive Future
2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.

・広島県議会議員　本長糧太様
・安芸太田町議会議長　中本正廣様
・安芸太田町議会副議長　津田宏様
・安芸太田町議会議員の皆さま

吉松副知事はご挨拶の中で、MTBの利用者は世界で約2,000万人、国内では5万～10万人程度とされることに触れました。そのうえで、安心して走れる環境を整えるため、安芸太田町を皮切りに県北地域へMTBの拠点を広げ、将来的には「マウンテンバイクの聖地」を目指す考えを示されました。

また、自転車専門誌「BicycleClub（バイシクルクラブ）」の山口編集長に取材していただいたほか、庄原市をはじめ、県内の自治体関係者が多数視察に訪れました。

バイシクルクラブ記事：https://www.funq.jp/bicycle-club/article/1098833/

【地元住民がゼロから学んだ古道整備とガイド】
MTB協議会メンバーが初めて安芸太田町を訪れたのは2026年3月です。そこからプロジェクトが始動し、わずか半年で、古道調査、コンセプトづくり、古道の許認可取得、再生作業、ガイド育成をすべて間に合わせました。MTB活用社会推進協議会がその先進事例をもとに密着して伴走し、町と一体で進めてきた取り組みです。

古道整備とガイドは、地元の皆さんがゼロから学び、協議会とともに成長してきたものです。ガイドはレース経験者ではなく、MTBを始めて半年～1年ほどの地元住民が中心となり、野外活動のプロや林業従事者、元消防士らが務めます。古道再生には70歳を超えるかつての山を知る生き証人とも言えるメンバーも加わりました。当日はその地元ガイドが、140名の初心者とファミリーの安全と楽しさをしっかりと導きました。

【今後の展望：町内約100kmのトレイルネットワークへ】
安芸太田町では今後、古道を生かしたトレイルネットワークを町内だけで約100kmまで広げる構想です。現在はイベント時のみの利用ですが、本格的なコース整備を進め、開かれたトレイルとすることを目指します。
古道の再生はMTBの力で進めますが、MTB専用の道にすることが目的ではありません。かつて生活道として多くの人が行き交ったように、ハイキングトレイル（登山道）やトレイルランニングなど、さまざまな利用に開放していく方向です。MTBをきっかけに人が通い、手入れが続くことで、古道を再び地域に開かれた道として未来へつないでいきます。
広島市には年間約250万人の外国人が訪れ、その半数ほどが欧米豪からの来訪者です。MTB活用社会推進協議会では、こうした訪日客を安芸太田町へ呼び込むインバウンドコンテンツとしても、古道MTBを育てていきます。

【MTB活用社会推進協議会が目指すところ】
MTB活用社会推進協議会が目指すのは、限られた敷地の中につくる箱庭型のパークではありません。欧米先進国に引けを取らない、日本全域に広がる広大な公共トレイルネットワークを拡大し続け、日本の中山間地域の振興に資することです。各地での実績づくりと、その実績に基づく政策提言を両立して進めていきます。そしてその日本という歴史ある国家を支えた古道網がいずれ世界遺産になることを夢見ています。山道を通じて日本の真の魅力を引き出し、未来の世代へと

JPF
Jump for Positive Future
2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.

つないでいくため、これからも全力で取り組んでまいります。

【イベント概要】
開催日：2026年11月7日（土）
会場：ぬくい夢の丘公園（広島県山県郡安芸太田町大字加計11671-1）ほか町内の古道
主催：広島県安芸太田町
企画運営：一般社団法人MTB活用社会推進協議会
参加費：無料（ヘルメット・E-MTB無料貸出）
内容：初心者講習、ガイド付き古道ライド、パンプコース、地域ブース、キッチンカー、森の学び・展示

【一般社団法人MTB活用社会推進協議会について】
官民連携で、公共の山道や公共施設におけるMTBなど自転車の多様な利活用と、持続可能な維持管理の仕組みづくりを目指す団体です。森林活用、防災、教育、観光、関係人口、交通空白の解消、獣害対策などの地域課題に、山道とMTBで貢献することを掲げています。各地での先進モデルづくり、山道利活用のガイドラインや維持管理手法の整備、事例に基づく政策提言に取り組んでいます。

設立：2025年5月11日発足、2026年7月に一般社団法人化
会員：オリエンタルコンサルタンツ株式会社、株式会社JPF、ヤマハ発動機株式会社、一般社団法人山守人・株式会社山守人
所在地：山梨県西八代郡市川三郷町
代表者：代表理事 渡辺俊太郎
URL：https://www.mtbcpc.org/

【株式会社JPFについて】
1950年、競輪やボートレースなどの公営競技におけるゴール着順判定用スリットカメラを発明。以来、多くの公営競技場において判定業務を支えてきました。2010年からは公営競技場のトータルマネジメント事業を開始し、全国各地で運営支援を展開しています。「人の成長機会を提供できる企業であり続けること」を理念に、地域活性化やサイクルスポーツ振興など、多様な取り組みを推進しています。

【メディアキット】
キット内の素材は本プレスリリースを掲載していただく場合のみ使用可能です。
https://drive.google.com/drive/folders/1iPq0eCG4KWWaPPD6ohqIsh4anpPSizwQ?usp=sharing

---

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社JPF
MTB活用社会推進協議会　事務局：明珍、皆川
TEL：03-3265-4851

JPF Jump for Positive Future
2021 Copyright © JPF Co., Ltd. All Rights Reserved.